

内閣総理大臣 菅 直人様

## わたしたちは、3.11東日本大震災の被災者及び福島原発事故による被害者・作業労働者の最大限の支援・救済と、すべての原発を停止し、持続可能な代替エネルギーへの転換を図ることを求めます。

わたしたちは、このたび東北・関東大震災と巨大な津波でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

数十万の被災者は、いまなお、避難先で先の見えない苦しい生活を強いられ、またそのような厳しい状況のなかでも、子どもたちは困難をいとわずに、明日への希望の灯を消さずに、けなげに被災地や避難先で働き、学んでいます。

しかしさらにむごいことに、「絶対安全」といわれていた福島原発事故が震災と同時に引き起こされ、多くの作業労働者の生命をかけた奮闘にもかかわらず、原発事故は収束していません。放射能汚染は日に日に拡大し、地域住民の社会生活だけではなく、心のふるさとをもずたずたに引き裂いています。また、全国の子どもの持つ親たちも将来にわたる放射能汚染の子ども達への影響について大変不安を抱えています。

今回の事故により、原子力エネルギーとは一度事故が起きれば人間の手には負えない、近づいてコントロールすることができないものであるということが、全ての国民の前に明らかとなりました。今、このような悲惨な事態に直面してなお、原子力発電所は本当に必要といえるのでしょうか。実際、事故以前から原子力発電所を止めても、電力需要には応じられるという試算は存在していました。(裏面資料参照)

以上をふまえ、わたしたちは、政府にここにある現実の解決を以下の4項目において実現することを強く要望します。

- 一、被災者・被害者・作業員の最後の一人まで十分かつ最大限の支援・救済を継続すること。
- 一、福島原発事故に関する詳細な事実を速やかに公開すること。
- 一、食品、空気、水、土壌の放射能汚染について、将来にわたる国民の健康を守る観点から厳重に管理すること。また被害を受けた生産者の補償も継続して行うこと。
- 一、多くの国民の声にこたえて、全国のすべての原発を停止し、持続可能な代替エネルギーへの転換を図っていくこと。

名 前	住 所

3.11東北・関東大震災の被災者・被曝者を支援する有志 取り扱い団体[ ]

問合せ先:大地に麦を実らす会 [mugimino@hotmail.co.jp](mailto:mugimino@hotmail.co.jp) <http://mugimino.web.fc2.com/>

署名送付先:〒252-0015 神奈川県座間市南栗原6-22-7

締め切り:第一次集約 2011年4月末日 第2次集約 2011年5月末日

# 地震大国日本には54基の原子力発電所がひしめいています

## 1. 原発を即刻やめても電力不足になることはありません

今回の事故により、初めて原発の恐ろしさを知った方も多いことでしょう。それでも電気が止まってしまっただけは困るから原発反対とも言えない——と思っているのではないのでしょうか。

日本でつくられる電気の35%は原発で発電しているなどと言われますが、実は、原発は出力調整ができず常にフル出力で運転し続けるしかないからであって、その陰でたくさんの火力や水力の発電所が電気を作らずに止められているのです。例えば、2007年の電力総量は約1兆kWhで、これに対し原発を除く火力・水力発電設備が1年間に発電しうる電力総量は約1.6兆kWhと十分賄える数値です。

## 2. 原発は温暖化防止の切り札にはなりません

巨大な原発を動かそうとすれば、燃料となるウランの採掘・濃縮・加工の過程で、原子炉建設はもちろん、運転時、老朽化を迎え高レベルに汚染された原子炉を解体する廃炉時、さらに使用済み核燃料や死の灰の何十年もの未来にわたる管理に至るまで、火力発電などによる膨大なエネルギーを必要とし、当然CO<sub>2</sub>も大量に排出します。

## 3. 原発は常に、環境の放射能汚染、労働者の被曝を伴います

原発の煙突からは気体の放射能が、排水口からは液体の放射能が日常的に垂れ流されています。「心配するほどのレベルではない」というのが国の言い分ですが、放出された放射能のうち寿命の長いものは、確実に周辺環境に蓄積されていきます。

また原発や原発で燃やしたあと生まれる燃料の再処理工場などに勤務する労働者は放射能を浴びながら働いています。この人たちの被曝なくして、原発は動かないのです。

## 4. 原発にかかるトータルコストは極めて膨大です

経済性から見ても、原発の立地対策や開発のためのコスト、核燃料サイクルにかかるコスト等々、その原子力にかかるトータルコストは極めて膨大であり、経済性など成立していません。

例えば、技術的に難しく事故を起こして14年5カ月も止まったままだった高速増殖炉「もんじゅ」は、その間1日約1億円かけて管理され、すでに4400億円がつぎこまれました。2010年には再度動かされた矢先にまた重大な事故を起こし、その事故処理のためにさらに9億円が上乗せされています。

このように各国が撤退した危険で難しい核燃料サイクルを続けることにより、日本人は世界一高い電気料金を支払っていると言われています。

## 5. 持続可能な代替エネルギーへの転換を目指して

「自然エネルギーで文明のすべてをまかなうことはありません」と言う方もいますが、それは間違いです。量的には豊富過ぎるほどあるのです。地球に降り注いでいる太陽エネルギーは文明で使っているエネルギーの1万倍。それを工学的に使いえる量を計算しても、文明で使うエネルギーの3000倍近くは太陽エネルギーでまかなえるのです。

これからは太陽光・風力・波力・地熱・小水力・・・などを利用しながら、私たち一人一人もエネルギー浪費そのものを見直していく必要があります。